

運動・スポーツの在り方について考えるオリパラ教育の実践
～パラスポーツ体験とドーピング講習をとおして～

学校名 山口県立西京高等学校（山口県）2年
2年体育コース（男子20名 女子15名 計35名）
（本実践に係る問合せ先）
電話番号 083（923）8508
学校メールアドレス
a51180@pref.yamaguchi.lg.jp

1 実践（研究）のねらい

- （1）パラバドミントンの元日本代表選手、現役実業団選手によるデモンストレーションや講演から、自らの生き方について考えるとともに、運動や体力向上についての意欲を高める。
- （2）スポーツドクターによるドーピング検査の詳しい説明や、元日本代表選手による実際のドーピング検査体験談等を聞き、ドーピングの危険性について深く知る。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）ドーピングについての講義

講師：安藤 裕一 氏（株式会社 GMSS ヒューマンラボ代表取締役／スポーツドクター）

筋肉増強剤や禁止薬物の紹介、身近にあり誤って飲んでしまいそうな禁止薬物の紹介など、ドーピングについての詳しい内容や危険性について学ぶことができた。また、パラバドミントンの元日本代表選手による実際のドーピング検査の実態など、体育コース生徒にとっては非常に興味深い内容であった。

（2）パラバドミントン体験学習

講師：江上 陽子 氏（パラバドミントン元日本代表選手）

パラバドミントンについてのルールの説明やカテゴリーの違いについて講師の説明を受けた後、10台の競技用の車椅子に乗り、操作の難しさを体験した。

江上氏のデモンストレーションを見せていただいたり、実際にパラバドミントンを体験したりすることができた。生徒達は、非常に生き生きした表情で活動していた。

○成果の意義

- 1 体育コースでの実施であったために、運動に対する興味・関心は高く、車椅子を操作してのスポーツは初めて経験した生徒が多かったが、「機会があれば是非またやってみたい。」という声が多かった。
- 2 ドーピングの危険性や、実際のドーピング検査の話を知ることができ、身近な薬にも禁止薬物が含まれていることがあるなど、改めてドーピングの危険性を知ることができた。

○今後の課題

- 1 運動部員が多く、身体を動かすことの好きな生徒が多い本校においては、体育コースに限らず、さらに多くの生徒に聴かせたい内容であった。今後は、授業の一貫としてだけでなく、全校行事として実施することも検討したい。
- 2 今後も、持続可能な具体的な取組について検討していく必要がある。

○研究内容

ドーピングの講習

ドーピングの危険性について知ることができた。



パラバドミントンの説明

間近でデモンストレーションを見ることができた。



競技用車いす体験

リレーで競技用車いすの操作に慣れることができた。



パラバドミントン体験

講師にコツを教えていただきながら体験することができた。



【パラ競技に関する意識の変化】

事前・事後における生徒達のパラ競技に関する意識の変化

【生徒の変容】

生徒は、事前に調査をした結果において、興味・関心が決して高いわけではなかった。体験後は、全ての生徒が、「非常に興味・関心をもった。」と回答し、意識の変化が見られた。

感想では「パラバドミントンがこんなに楽しいとは思わなかった。」という意見や、「東京オリンピック・パラリンピックでは、是非観戦してみたい。」「他のパラリンピック競技も是非挑戦してみたい。」などの感想があり、とても貴重な体験となった。

【今後の取り組みについて】

～ 実践終了後の学校の取り組みの方向性、内容について ～

- 元日本代表選手の指導で、インクルーシブスポーツの素晴らしさを体感した。また、スポーツドクターからの指導で、ドーピングの危険性にも触れることができ、体育コースの生徒達にとっては、とても興味深い体験となった。来年度以降もこうしたパラスポーツを体験する中で、共生社会の構築に向けた意識を高めるとともに、スポーツを「支える」「知る」人材育成についても努めていきたい。